

## フィリピンの流通近代化

研究期間 平成28年度

研究代表者名 舟橋豊子

### I はじめに

本研究の目的は、フィリピンの流通構造について体系化して、流通近代化の視点からフィリピンが国際比較のなかで、どのような位置づけにあるのか、フィリピンの流通近代化の特徴は何であるのかについて明らかにすることにある。流通近代化とは、一般に設備投資を基軸とする拡大する市場のシェア拡大に適合した流通再編成を意味し、その共通の形態は「大型」と「総合化」であった（梅津，1971）。チェーンストアの優勢に押されて、日本の商店街や韓国の在来市場などの伝統小売業は、衰退のサイクルに入っていった。フィリピンでは、近代小売業が増えていくのに伴い、流通構造はどのような経緯を経ていくだろうか。高度に発展した経済と発展途上の経済では、流通近代化のプロセスが異なる可能性があり、本研究では発展途上の資本主義国の事例としてフィリピンを選択した。流通近代化は①中小小売業の競争力強化，②チェーン経営形態による流通効率化，③卸売業の機能高度化，④不合理な商慣行の是正について日本研究から炙り出されている。

### II 研究内容

#### (1) 先行研究の整理と統計データの収集

フィリピンの流通近代化の特徴を掴むため、この年度では、フィリピンの大都市として首都マニラを選定し、この地域を流通近代化の要因とされている4点で分析できるよう資料収集をおこなう。具体的には、①中小小売商の店舗数と競争力，②チェーン経営を実施している小売商の整理と効率化の把握，③卸売商の機能整理，④商慣行の整理である。

#### (2) 聞き取り調査と観察調査

資料では得ることのできない実態を聞き取り調査や観察調査によって把握する。具体的には、①サリサリストアやコンビニエンスストア，ドラッグストアの店舗展開，②ドラッグストアやコンビニエンスストア，スーパーマーケットなどのチェーン展開と効率化，③卸売商のビジネス展開の確認と機能の確認，④リベートなどの商慣行について、聞き取

り、観察が可能である店舗にて実行する。

### Ⅲ 研究成果

フィリピンの流通近代化の特徴を掴むため、フィリピンの大都市として首都マニラを選定し、この地域を流通近代化の要因とされている 4 点で分析した結果をまとめる。

#### ① 中小小売商の店舗数と競争力

##### a. 大規模化・チェーンストア化と中小小売商の競争力強化

フィリピンの小売業界は少数の大規模近代小売業（スーパー・ハイパーマーケット等）と多数の零細小売事業者（サリサリストア等）からなる。スーパー・ハイパーマーケット及びコンビニエンスストア(CVS)といった近代小売業は約 3 割に留まる（日本貿易振興機構（ジェトロ）マニラ事務所，2016）。小売セクター自体は成長が見込まれるものの、近代小売店の増加に伴い、特に都市部において市場の競争環境は激しくなっている（大和総研，2015）。しかし、フィリピン経済や流通がマニラを中心に革新を続けているなか、地域ごとの経済格差も見受けられる。今なお、近代小売業と伝統小売業が共存している状態にあるが、地域の所得差、消費者の経済格差が大きいことから、中間層は増えていっても商品購入先の棲み分けがされているため、この状況の劇的な変化は起きないと見られる。

##### b. サリサリストアやコンビニエンスストア、ドラッグストアの店舗展開

小売企業の売上首位は華僑系シー財閥グループのSMリテールである。2位は地場系ピュアゴールドプライスクラブ、3位は地場系マーキュリードラッグで、ドラッグストア事業を全国展開している。2014年の売上高は21.1億米ドルである。英国の調査機関ユーロ・モニターによれば2015年の小売店舗数は約93万店であり、そのうち約81万店がサリサリストアであるという。コンビニエンスストア（CVS）はセブンイレブンとミニストップがCVS市場のシェア92.6%を占めている。売上首位はセブンイレブンである。2014年の売上高は3.9億米ドルで、CVSの売上シェアの63%を占めており小売売上高全体でも8位である（大和総研，2015）。

#### ② チェーン経営を実施している小売商の整理と効率化の把握

財閥企業による近代小売業のチェーン展開が見られ、ハイパーマーケットやスーパーマ

ーケットが顕著である。また、マーキュリードラッグのチェーン展開があげられる。ボランティア・チェーンを展開しているストアは今回調査したなかでは見られなかったが、フランチャイズ・チェーンとしてはCVSがあげられる。また、ハイパーマーケットやスーパーマーケットのPBブランドに見られる商品開発・原料調達や配送等による効率化がみられる。

### ③ 卸売商の機能

発展途上国では、経済が発展するにつれて中小小売商が増加する傾向があるが、まだ製造企業も相対的に小規模なケースが多く、取引コストの節減や流通在庫の圧縮を図るために、新たに卸売商・集積が出現する例がよく見られる（関根，2008）。しかし、外資企業を中心に巨大製造企業が出現するフィリピンにおいては、製造業の系列下にある卸売商や中華系フィリピン人による自営の卸売商はみられるが、卸売商・集積の特徴を見出すことはできなかった。卸売商の機能としては在庫，物流，販売促進，価格維持機能がみられる。

### ④ 商慣行

価格の維持や販売促進などについて支払われるリベートは零細小売業への聞き取り調査により「支払われている」との回答を得ることができたが、近代小売業については回答できるキーパーソンに聞き取りをすることができなかった。しかし、食品製造業への聞き取りでは、価格の維持や販売促進などの協力を近代小売業に求めているとの回答を得ており、製造企業の優勢がうかがえる。

## IV おわりに

本研究は、流通近代化の要因とされている4点について調査，検討した。フィリピンでは伝統小売業，近代小売業ともに成長している小売セクターのなかで、チェーンストアなどによる近代小売業の店舗数増加がみられているが、その数やチェーン経営を実施している企業は限定的であり、伝統小売業と近代小売業の共存，製造業の系列下にある卸売商の存在や商慣行の維持といったフィリピン独自の経緯にある。そして、設備投資を基軸とした拡大する市場のシェア拡大に適合した流通再編成—「大型」と「総合化」の状況を今の段階ではみることはできない。今後の課題は、研究対象を売上首位にある一近代小売企業に絞って、流通近代化の要因とされている4分析からその実態を詳細につかんでいくことにある。